

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 (学)市川学園 市川中学校・高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒272-0816
千葉県市川市本北方2-38-1

E-mail : daihyo@ichigak-net.ed.jp
 Website : http://www.ichigaku.ac.jp/

児童生徒数：男子 1433名 女子 875名 合計 2308名
 児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (理数教育)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ユネスコスクール加盟2年目を迎える本年も実りの多い1年となった。

現高校2年の生徒が『第4回 ユネスコスクール事業 ESD 国際交流プログラム』に参加し、3月に欧州各国を訪れ、3月27日にはユネスコパリ本部を表敬訪問した。また、11月に岡山県で開催されたユネスコスクール世界大会・高校生フォーラムに日本代表(関東地区・千葉県合同チーム)の一員として高校1年の生徒が参加した。

さらに、博報財団『第5回海外児童日本体験プログラム』や文部科学省『SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)-Japan ESD Award』受賞校との交流など様々な取り組みを行った。

本校 ESD のテーマは「1 国際理解教育」「2 理科教育」「3 環境教育」である。これを中心にこの1年間の活動を報告する。

1 国際理解教育について

- (1) 3/23~29。『第4回 ユネスコスクール事業 ESD 国際交流プログラム』に参加。
 - ① ドイツ~フランスのユネスコスクールを歴訪。パリ・ユネスコ本部で活動報告。
 - ② 5/17。市川市ユネスコ協会 通常総会で上記プログラムの参加報告。
 - ③ 6/21。日本ユネスコ協会連盟 総会で上記プログラムの参加報告。
- (2) 11/5~8。ユネスコスクール世界大会 高校生フォーラム
 - ① 日本代表・関東千葉県チームの一員として生徒1名参加。世界31カ国の高校生、教育関係者と共に「持続可能な社会」について議論を重ねた。
 - ② 本大会に備え8/10~11岡山県で実施された『第4回 ユネスコスクール世界大会準備セミナー』に参加した。
- (3) 海外研修(希望制)
 - ① 8/17~28。ケンブリッジ大学研修。中3・高1。サイエンスセミナー。ドミトリー泊。
 - ② 8/17~28。オックスフォード大学研修。中3・高1。英国史・英文学ゼミ。ドミトリー泊。
 - ③ 8/5~21。カナダ研修。中3。BC州ナナイモ。異文化理解。体験型アクティビティ。ホームステイ。
 - ④ 3/14~29。ニュージーランド研修。高1。姉妹校で実施。異文化理解。体験型アクティビティ。ホームステイ。
- (4) 11/25~ 中学3年シンガポール修学旅行。4泊5日。
- (5) 海外交流
 - ① 4/26~5/4。博報財団『第5回 日本児童・海外体験プログラム 海外児童・日本体験プログラム』生徒4名・教員1名参加。ベトナム・ホーチミン市の学校訪問。ホームステイ
 - ② 8/17~29。博報財団『第5回海外児童日本体験プログラム』での各種のイベントに多数の生徒が参加し、世界各国から来日した生徒達と様々な交流を行った。特に、8/25には、インドネシア・ロシア・スリランカ・トルコ・マレーシアの生徒・関係者を学校に迎え、授業体験や日本文化体験(書道、茶道、太巻き寿司作り…)など様々なイベントを実施した。
 - ③ 11/20~21。タイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校の生徒7名・教員受入れ。合同研究発表会。【SSH企画】
 - ④ 2/10。文部科学省からの依頼で『SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)-Japan ESD Award』受賞校・タイ王国 ウドンピッタヤヌクーン高校の生徒・教師・教育関係者9名を受入。授業体験やシンポジウムなど様々なイベントを実施し、国際交流をはかった。
 - ⑤ 3/21~28。ホフスタッド・リセウム(Hofstad Lyceum, HL)高校の生徒8名・教員3名受入。合同研究発表会、ホームステイ。【SSH企画】

- (6) SSH海外研修
- ① 7/16～20。タイ王国研修。生徒7名・教員3名参加。タイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ(PCCC)校での合同研究発表会。11/20～24にはPCCC生徒・関係者が来日。
 - ② 7/16～22。香港研修。生徒8名・教員2名参加。香港科技大学で行われた「INTERCITY Mathematics & Science Summer Camp For Talented Students 2014」に参加。アジア諸国の高校生と共に課題研究を実施。
 - ③ 1/5～10。アメリカ研修。生徒2名、教員1名参加。VA州トーマスジェファーソン高校での合同研究発表会。
- (7) 公募研修
- ① 7/28～8/2。JICAエッセイコンテスト上位入賞者ベトナム研修。生徒1名参加。
 - ② 7/27～31。第21回日韓高校生交流キャンプ。生徒1名参加。
 - ③ 3/15～21。慶應義塾大学「世界の医療を切り拓く君、自我作古」プログラム。日スウェーデンKalorinska研究所スウェーデン王立工科大学視察研修。生徒1名参加。
- (8) 教員研修(各研修参加者は1名)
- ① 5/15～25。ACCU中国政府日本教職員招聘プログラム。中国視察(北京市～貴陽市)。
 - ② 8/26～9/1。ACCU韓国政府日本教職員招聘プログラム。韓国視察(ソウル市～清州市～丹陽市)。
- (9) 国内活動
- ① 『JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト』国際協力特別賞(高2)青年海外協力隊千葉OB会会長賞3名(中1・中2・高2)、佳作2名(高2)学校賞(中・高)
- (10) 土曜講座(国際教育関連講座。年間16講座開講。対象：生徒、教職員、保護者)
- ① 5/10『グローバル時代にはどのような人材が求められるか』江川雅子氏(東京大学理事)
 - ② 6/7『これからの国際社会で求められる人材』北城恪太郎氏(国際基督教大学理事長)
 - ③ 6/14『これからの日本と君たち』藤崎一郎氏(全駐米大使、日米協会会長)
 - ④ 9/6『人を守る人の手』中村恵氏(国連難民高等弁務官事務所・日本委員会)
 - ⑤ 11/1『能楽～ユネスコ無形文化遺産第1号』橋岡久太郎(観世流シテ方楽師)
 - ⑥ 1/10『グローバル化とは』安西祐一郎氏(中央教育審議会会長、学術振興会理事長)
- (11) ホストファミリー・ネットワーク(留学生受け入れ準備家庭) 現在登録数：50家庭。

2 理科教育について～SSH指定第2期・1年目の本年度は以下の活動を行った

- (1) 研究開発の課題
探究的な授業と課題研究を両輪とする指導方法を完成させ、国際的に活躍できる課題発見型研究者育成の基盤を構築する。
- (2) 研究開発の概要
通常授業の改善のために学校設定科目に指定した『探究数学Ⅰ～Ⅲ・AB』『探究物理』『探究化学』『探究生物』『プレゼンテーション英語』『構造読解』について研究を行った。実験から学ぶ探究的な方向を探ると共に、基礎学力の伸長を促す取り組みを行い、その効果を促進するための評価の研究を行った。数学の取り組みにおいては、放課後に探究的な講座を開講して、数学の課題研究推進に取り組んだ。
海外連携については、課題研究を通じたタイ王国プリンセスチュラボンカレッジとの相互訪問を実施した他、オランダの生徒の受け入れを行った。
中学校においては、前認知を高めるためのCASEプログラムの部分導入を実行した。課題研究の研究に関しては、生徒の自己評価を中心とした実験ノートの評価方法を中心に研究をすすめた。
また、報告書作成に関しては、実施報告書ならびに生徒の成果報告を英語化した。
- (3) 平成26年度実施規模(高等学校)
対象は全日制普通科とする。探究的な授業の開発実施は全校生徒1320名(36クラス)とする。市川サイエンス(課題研究)の対象は高校2年理系生徒全員260名(7クラス)とする。なお、実験中心に運営される学校指定科目は高校2年生でも実施している。

- (4) 外部連携
- ① 他校連携
 県立船橋高校・横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校・私立静岡北高校。コアSSHを採択されている船橋高等学校を中心に、各校と連携し種々の企画・イベントに、企画・運営、生徒引率、発表指導として参加した。
 - ② 高大連携
 千葉大学・東京工業大学・東邦大学・東京大学・東京農工大学・東京学芸大学・東京理科大学。市川サイエンス受講者が課題研究に向けてのヒントを得、アドバイスをもらう機会とした。また参加者が主に高校2年生に限定されるために、進路選択の参考にもなるよう、プログラムした。
 - ③ 高産連携
 清水建設・花王・NIPPI・JAXA・ぐんま天文台。市川サイエンス参加者対象に実施。企業との連携に取り組んだ。産業界でどのような取り組みが行われているのかを紹介する形で実施した。
- (5) 校外学習
 白神山地自然学習会・守谷海岸自然観察会・三浦半島自然観察会。自然観察を通じて、通常授業の内容を進化させる取り組みを行った。守谷海岸自然観察会では市川サイエンス受講者が中学1年生を現地指導した。
- (6) サイエンスダイアログ(英語による集中講義)
 市川サイエンス受講者対象に実施。科学に関する講義を英語のみを使用して実施することで科学英語に触れることを目的とした。本年度は8名の講師を招聘した。
- (7) CASE・中3 探究する理科
 中学1年よりCASEプログラムのいくつかを導入した。中学3年生では中学校理科のまとめとして探究学習の意味を含めたコンテスト形式の課題を3学期に行った。
- (8) 6/28 授業研究発表会
 理科・数学・国語(言語技術)の公開授業を実施。終了後、各教科の分科会で研究討議を行った。全国から中・高・大学の教職員が多数参加した。
- (9) 外部発表会参加 【受賞】
- 8/3-5 第4回高校生バイオサミット 【審査員特別賞】
 - 9月 坊ちゃん科学賞 【優良入賞】
 - 9/27 第8回高校生理学研究発表会 【千葉県校長協会賞】 【優秀賞】
 - 10月 千葉県児童・生徒教職員科学作品展<科学論文の部>
 【千葉県総合教育センター所長賞】 【優秀賞】 【努力賞】
 - 10月 エッグドロップ甲子園 【カネパッケージ賞】
 - 10/12 第4回MIMS現象数理学 高校生発表会 【審査員特別賞】
 - 10/25 集まれ!理系女子 第6回女子生徒による科学研究発表交流会
 - 11月 日本学生科学賞(読売新聞社主催) 【入選1等】
 - 11月 JSEC2014(朝日新聞社主催) 【佳作】
 - 11/16 (公財)藤原ナチュラルヒストリー振興財団 第5回高校生ポスター研究発表
 - 11/27 日科学の芽(筑波大学主催) 【努力賞】
 - 12/13 第4回トップレベル研究拠点プログラム
 - 12/22 サイエンスキャッスル
 - 2/7 都立戸山高校成果発表会
 - 3/15 首都圏オープン生徒研究発表会
 - 3/18 第56回植物生理学会年会
 - 3/22 物理学会 Jr. セッション
 - 3/22 関東近県SSH合同発表会
 - 3/23-24 つくばサイエンスエッジ
 - 3/25 第6回千葉県高等学校課題研究発表会
 - 3/27 ジュニア農芸化学会「Crawling Speed of the Drosophila without alae」
 - 3/27 化学クラブ研究発表会
 - 3/29 日本水産学会「高校生による研究発表会」

3/30 サイエンスメンター研究発表会

(10) 小学生対象講座の実施

7/12・3/14。「高校生による理科・数学体験講座」。小学生各 200 名、合計 400 名を対象に実施した。

(11) 海外校との研究交流

① 11/20～21。タイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校の生徒 7 名・教員受入れ。合同研究発表会、ホームステイ。

② 3/21～28。ホフスタッド・リセウム (Hofstad Lyceum, HL) 高校の生徒 8 名・教員 3 名受入。合同研究発表会、ホームステイ。

(12) 土曜講座 (SSH 関連講座)

① 5/14『数学の「脳力」と「智力」が未来を拓く』藤田宏氏 (東京大学名誉教授)

② 5/14『宇宙への挑戦』阪本成一氏 (宇宙航空研究機構、宇宙科学広報・普及主幹)

③ 9/6『人間はコンピュータに勝てるか』勝又清和 (将棋棋士、東京大学大学院客員教授)

④ 11/1『確率から生まれる自然法則』竹内一将 (東京大学理学系研究科助教)

⑤ 11/19『夢をあきらめない』根岸英一氏 (ノーベル化学賞受賞、パデュー大学特別教授)

⑥ 2/7『ハートで感じる Mathematics!』春山かおる (東芝無線電力伝送技術主幹)

3 環境教育について

(1) 生徒会主催エコキャップ運動

① 本年度の回収日：9 月 13 日 (回収は年間 2 回程度)

② 回収個数：60, 200 個 (140 kg)

③ 回収方法

1) 回収箱設置 全教室、校内設置自動販売機脇、教員室

2) 生徒・教職員自宅回収

(2) 校外学習

① 大町自然観察会 (中 1) ② 守谷海岸自然観察会 (中 1) ③ 三浦半島観察会 (高 3)

④ 白神山地自然学習会 (中 3～)

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他 (ESD テーマごとに適切に活動した)